

人生の必修科目！

必ず答えがここにある！最強の11冊

いま、日本は戦争をしている —太平洋戦争のときの子どもたち— 絵本

堀川理万子 絵と文

太平洋戦争中、子どもたちは、日々、何を感じながら暮らしていたのか…。子どもの頃、空襲、原爆、地上戦、引き揚げ、疎開などを経験した方を取材。子どもたちの語りを通して、戦争の理不尽とリアルを伝える絵本。

戦争・平和 ノンフィクション

2025年6月刊行 小峰書店
3,800円+税 / 30m×23m / 128ページ



978-4-338-02210-1

かわいい子ランキング

ブリジット・ヤング 作 / 三辺律子 訳

中学校の生徒たちにいっせいにメールで送られてきた、学年のかわいい女の子のランキング。みんなの憧れだったソフィーが2位で、1位は地味なイヴだった。イヴは注目をあびることに苦痛を感じ、ソフィーは1位じゃなかったことに屈辱を感じ、そして他の女の子たちも、それぞれに傷ついていた。イヴ、ソフィー、それにイヴの親友のネッサの3人は、ランキングを書いた「犯人」を見つけようとするが……。

家族・友達 学校生活

2022年8月刊行 ほるぷ出版
1,600円+税 / B6判 / 386ページ



978-4-593-10189-4



978-4-337-31012-4

聞かせて、おじいちゃん 原爆の語り部・森政忠雄さんの決意

横田明子 著 / 山田朗 監修

話したくない。6年生で被爆してから59年間、心の奥底に閉じこめてきた原爆の記憶。おじいちゃんは、その暗く重い記憶をいかに開き、語り部となっていたのか。そのきっかけをつくった孫は、祖父の語りをどのように聞いたのか。人類史上初となる広島惨禍から75年が過ぎ、次第に失われつつある原爆の記憶を、祖父と孫それぞれの成長に重ねながら記録するノンフィクション。

戦争・平和 ノンフィクション

2021年5月刊行 国士社
1,500円+税 / 四六判 / 160ページ

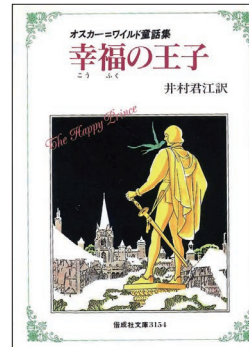
幸福の王子

ワイルド 作 / 井村君江 訳

オスカー・ワイルドの残した2冊の童話集の完訳決定版。自らはポロポロになりながら人々の幸福を願う「幸福の王子」はもちろん、愛と魂の関係を描いた「漁師とその魂」は必読です。美と愛のために犠牲をいとわないワイルドの強い姿勢をご堪能ください。

短編小説 青春・感動

1998年3月刊行 偕成社
900円+税 / B6判 / 336ページ



978-4-03-651540-0

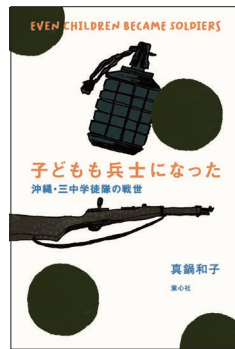
子どもも兵士になった 沖縄・三中学徒隊の戦世

真鍋和子 著 / 多屋光孫 絵

1944年9月、沖縄県名護市に独立混成第四旅団の主力、第二歩兵隊が進軍した。この日を境に全沖縄県民、沖縄三中生全員の運命が大きく変わる。沖縄県北部の山岳での学徒兵たちの戦世の日々。そして生き延びた学徒たちが戦で命を落とした学友たちの慰霊碑「三中学徒之碑」を建立し、平和の大切さを願う日々を描くノンフィクション作品。

戦争・平和 ノンフィクション

2025年4月刊行 童心社
1,800円+税 / 四六判 / 239ページ



978-4-494-02089-8



978-4-265-08044-1

子ブタたちはどう生きてたのか ぶうぶうう農園の7か月

太田匡彦 著

豚肉のこと、考えたことがありますか？
「人間の都合で食べるのだからこそ、生きている間は幸せに過ごさせてあげたい」という思いで完全放牧養豚を実践する「ぶうぶうう農園」（山梨県韭崎町）。ここでは、生き生きとしたブタたちの姿が見られます。放牧により母子で自由に過ごせる彼らと、一般的な養豚場のブタにはどんなちがいがいるのでしょうか？そして、アニマルウェルフェア【動物福祉】とは？

ノンフィクション 動物

2025年9月刊行
1,500円+税 / A5判 / 160ページ 岩崎書店



978-4-251-04629-1

中村哲 命の水で砂漠を緑にかえた医師

濱野京子 文

35年もの間、パキスタンとアフガニスタンで活動した中村哲。初めは医師として赴任した哲は、貧しい山岳地帯の診療所でハンセン病患者など多くの人を救いました。その後、井戸を掘り水路をひくなどの治水事業、そして農業などの活動を始めます。医療行為ではないように見えるそれらも、すべて命を守るための行動なのです。

仕事 戦争・平和

2023年3月刊行
1,500円+税 / A5判 / 144ページ あかね書房



978-4-323-07572-3

18歳の壁 どう乗り越えるか

和田秀樹 著

成人って何だろう？精神科医・和田秀樹が「自分自身を受け入れること、自分の目標や夢、親に隠していること、DVから逃れる方法、アダルトチルドレン、親友のつくり方、不良から逃れる方法、いじめにあったら、信頼できる先生、セクハラ・パワハラへの対処法、記憶や集中力を高める方法、ストレス解消法、スマホとのつき合い方、情報リテラシーなど」について本音で語る、中高生の人生攻略法！最高の人生を切り開くために！

学校生活 家族・友達

2024年12月刊行
1,300円+税 / 四六判 / 159ページ 金の星社



978-4-591-18741-8

真昼にも星が光ると知ったのは

梨屋 アリエ 作

夏鈴が電車で見かけた青年は、白杖を使っていたのに、席をゆずられたら、座ってスマホを見はじめた。詐欺？ 文句を言おうと話しかけたことから、思わぬ交流が始まる。夏鈴の祖母は、見えない・聞こえない・話せないヘレン・ケラーを「三重苦」だと言っけれど、盲ろう者だとわかった彼は、そんなふうには見えない。一方、大好きな親友の菜白は、障害があると対等な友だちにはなれないと言ひ、夏鈴はその言葉に大きく動揺する。

青春・感動 家族・友達

2025年10月刊行
1,600円+税 / 四六変型判 / 238ページ ポプラ社



978-4-652-20686-7

ゾウのテウニス

トーン・テレヘン 作 / 長山さき 訳 / たまむらさちこ 絵

クラスみんなには簡単なことが、テウニスにはできない。でも、ゾウであることが役に立つこともあるし、子どもたちはテウニスがかっこいい。それでも、テウニスは思う。——世界中の人間がゾウだったら良いのに……。そうしたら、なにもかもがこんなにややくしくなくてすむのに……。人間に囲まれて喜ぶゾウの男の子の気持ちを描く。どうぶつたちの物語で知られるオランダの国民的作家トーン・テレヘンの物語。

短編小説 家族・友達

2025年6月刊行
1,500円+税 / 四六判 / 126ページ 理論社



978-4-05-206160-8

みんな「読める」 わたしは書体デザイナー

高田裕美 著

だれもが読みやすい文字をめざして開発された「UDデジタル教科書体」を手がけた著者の、限りない挑戦を描きます。小学校の調べ学習などで、子どもたちにとっても身近になった「ユニバーサルデザイン」の考え方に、デザインの視点からふれられる一冊。

科学・知識 仕事

2025年11月刊行
1,600円+税 / A5判 / 128ページ Gakken

探求